

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第二部 労働運動

XI 農民運動

2 主要な農民運動

8 出稼ぎ農民・農村労働者の運動

出稼連の運動

全国出稼組合連合会(出稼連)は結成以来出稼ぎ中の労災問題を主要課題とした運動を展開してきたが、一九七八年から七九年における運動も事故の調査、労災認定訴訟、労災損害賠償請求に焦点がおかれた。また既述のように、農民春闘委員会の主要メンバーとして米価をはじめ農畜産物価格要求運動に参加した。

出稼連は七八年十一月二八日、拡大幹事会を開き、出稼ぎ基本問題専門検討機関の設置、雇入通知書の発行の徹底化、雇用保険法の改正、出稼者にたいする労災保険の適用拡大など八項目にわたる労働省申し入れ事項および農村地域定住促進事業にかかわる出稼ぎ農民の要求、農産物価格保障と食糧の自給体制確立など農水省にたいする要求事項を確認のうえ、関係省庁に要請した。

七九年三月四日、出稼連は東京・永田町の社会文化会館に東北や関東地区の出稼者約五〇〇人の参加のもとに「第一五回全国出稼者大会」(東日本大会)を開催した。大会は、(1)出稼者の諸要求を守る決議、(2)出稼者の雇用安定にかんする決議、(3)農林漁業政策の確立にかんする決議、(4)建設業における労働災害・賃金不払いの一掃と出稼ぎ労災闘争の勝利をかちとる決議を採択した。また労災裁判闘争の実情報告、前日おこなわれた対政府要請行動の報告のあと「賃金宣言の実行に関する決議」および大会宣言を確認して終了した。この大会の前日、出稼連は「第九回定期大会」を開き、七九年度の運動方針・予算案・新役員を決定、同時に、最低賃金を要求する「賃金宣言」を採択し、労働省・農水省・建設省交渉をおこなった。

「第一五回全国出稼者西日本大会」は三月一日、大阪のPLP会館で開催された。この大会には主に西日本の出稼者や労組代表二〇〇人が参加、東日本大会と同じ出稼者の諸要求にかんする四決議のほか、特別決議として「柳井建設宿舍焼失十二人殉職者・遺族全面支援、補償問題の早期勝利をかちとる件」と「フジタ工業不当配転とたたかう会支援、会社に反省を求める件」を採択した。翌一二日、大会代表による大阪府・市・大阪労働基準局にたいする交渉がおこなわれた。

農村労連の活動

農村労働組合連合会(農村労連)は七八年十一月一日、全日本民主医療機関連合会協賛による「振動病対策全国研究集会」を愛媛県新居浜市で開催し、振動病にかかわる諸問題を協議した。翌一二日は振動病対策を主要議題とした「全体集会」(約四〇〇人)を開き振動病および退職問題

にかかわる農村労組の意義を確認した。なお当地は住友別子銅山労働者九二人が農村労組支援のもとに住友を相手に振動病訴訟をおこしているところである。また農村労連は一二月二九・三〇日の両日、第一六回中央委を開き、春におこなわれた第一四回定期大会以降の運動総括と大会決定である組織拡大目標推進方針を確認、同時に重点方針として、(1)山林・石材・鉱山労働者の振動病対策、(2)建設・林業労働者の退職金制度の適用、三省協定なみの賃金要求、地方における大型農村労組の設立運動などを決定した。なお、三省協定賃金とは建設・農水・運輸の三省が決める公共事業の設計労務費単価のこと。

七九年二月四日、「第一四回出稼ぎ者が力を合わせて要求を獲得する大集会」は同実行委員会主催、農村労連協力のもとに東京・八丁堀の都立勤労福祉会館で開催された。集会にはおもに東北地方の出稼ぎ者約二〇〇人が参加、賃金未払いや三省協定以下の賃金を打破するため「団結して就労改善など要求」をかちとることを確認した。またこの前日おこなわれた同実行委による農水・建設・労働の各省交渉報告もなされた。四月二九・三〇日の両日、農村労連は「第一五回定期大会」を静岡県伊豆長岡の観光会館で開催し、一九七八年度の成果を確認するとともに七九年度の運動方針を決定した。それによると組織拡大、全国で五〇〇〇人の患者の労災認定、愛媛県下の住友金属鉱山にたいする企業責任追及裁判闘争の推進等の成果に立って、(1)三省協定なみの賃金、(2)振動病対策、(3)建設業・林業にたいする退職金制度の適用、(4)組合員一〇万人をめざす五ヵ年計画の推進等、「いのちと健康を守る運動」を重点方針とするものであった。

山林労働者の運動

農山村の林業労働者で組織している全国林業研究グループ連絡協議会は七九年三月七日、東京・虎ノ門のニッショーホールで組織結成以来はじめて「全国林業後継者総決起大会」を開催した。大会には五〇〇人の林業労働者が参加、(1)山林の振興策、(2)秩序ある外材輸入、(3)相続税の改善などのスローガンを政府要請事項として決議した。大会後、農水省および地元選出国會議員に要請行動をおこなった。

林政民主化共闘会議・全国山林労組・全国山村労組協議会は七九年五月一四日から一六日にかけて全国から林業労働者一二〇名を集め「雇用安定・振動病絶滅中央行動」を展開、林野庁と労働省に交渉した。この中央行動は農民春闘の一環として展開されたものであり、おもな要請事項は、(1)振動病の予防、(2)治療、(3)医療、(4)健康診断、(5)雇用安定などであった。なお林政民主化共闘会議は農民春闘委員会のメンバーとして農民団体と共闘した。

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
